

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)		乗用車販売店（販売担当）	・客の回転率が良く、短時間でまとまる商談が増えている。この調子が続けば、年度末に向けての購入が増えてくる。
		商店街（代表者）	・商店街の空き店舗が少しずつ埋まってきた。それに伴い来街者数も増加する。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・一般消費者向けの通信販売が好調を維持する。
		百貨店（営業担当）	・停止条件付きということになるが、地政学リスクがなにも起こらなければ、今の米国経済や欧州が非常に良くなってきており、特にドイツが極めて良いといった状況の中で日本の景気も上向いていく。リスクオンの方向に進んでおり、果実の分配が商品に回ってくればよい。
		百貨店（営業担当）	・寒波の到来から季節商材が好調で、自家需要品が好調である。リビング用品、寝具、バス、インテリア、食器等自分のための買物や、嗜好性の高い海外ブランド、美術工芸も依然好調で、家での生活を充実する購買意欲と慎重な購買姿勢は依然続いている。購買客数、商品単価の回復は続いており今後も期待できる。
		百貨店（営業統括）	・悪くなる要素が少なく、安定的な円相場や株価の状況から消費動向は落ちないが、良くなる要素もなく、積極的な購買意欲にまでは至らない。
		百貨店（店舗事業計画部）	・株高により、高所得者層の購買の増加は今後も期待される。ただし中間所得者層においては、特別な日の消費は増加傾向にあるものの、日常の消費はまだまだ節約を重視し慎重である。底上げにはまだ時間が掛かる。
		スーパー（経営者）	・政権が安定し、事業者の倒産等も安定してきているのでこの先もよい。
		スーパー（総務担当）	・青果は輸出が好調であり、今後、地域のスーパーマーケットにもプラス効果が波及する。また、東京オリンピックの開催や大きなコンサート等、報道をにぎわせる話題が消費にプラスの効果を及ぼす。
		家電量販店（店員）	・夏くらいからずっと調子が悪かったが、12月になって持ち直してきた。山と谷があるが、ここ6か月間くらいが谷だった。12月ほど大きくは来ないだろうが、徐々に数字は上がっていく。
		乗用車販売店（総務担当）	・1月に新型車が投入される。新型車効果で販売台数が伸びる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・娯楽が少ない地域であり、新規出店と映画の好調は、今後も続いて集客拡大につながる。それらの好材料があり、年間でも最大の繁忙期である年末年始ではボーナス商戦の上乗せもあり、確実に景気は良くなっていく。
		高級レストラン（経営者）	・来年にかけているいろいろな催事があり、会合や祭りや招待状等、人が動くような企画があるので良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・新年会予約も前年より多く入っている。宿泊予約も順調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況も好調に推移しており、当面はこの勢いが続く。
		タクシー運転手	・今のところ落ち込む要素が少なく、堅調さは保てる。
		通信会社（企画担当）	・年度末の駆け込みもありそうだが、今年は引き合いや相談数も多く、現在より受注が見込める。
		通信会社（企画担当）	・新商品投入効果が続く。
		通信会社（営業）	・新しい市場の開拓及び販売店の拡大や、それに合わせた大規模な販売促進活動とサービス内容の拡充を繁忙期に合わせて展開する。
		商店街（代表者）	・客の購買意欲を少し感じられるようになってきたが、客単価次第で景気は変化することになる。
	商店街（代表者）	・給料が上がる企業に勤めている人は余りいない。国が施策で打ち出す方向へすぐに行くようなことはありえない。収入が増える要素がない人が当地区には多く、そう変わらない。	
	商店街（代表者）	・高額商品の回転が良くない。セールに入り好調になれば良い。	
	商店街（代表者）	・歳末商戦が非常に厳しい状況であり、年度末に向かって良くなる材料は見当たらない。	
	一般小売店〔青果〕（店長）	・1～2月も寒さが続き、全国的に品薄で同じような相場になる。厳しい状況が続く。	
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・年末の一番稼ぎ時にこのありさまでは、到底望み薄である。何とか景気が回復してくれないと、水産業界自体が完全に埋没してしまう。	

一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・仕入れ値も上がっているため売上増加になる要素はない。景気が大きく回復しない限り客の財布のひもはまだ固く、先行きは不安定である。
百貨店（営業担当）	・ 平年並みの傾向が続いており、上向くため準備も大きくはない。
百貨店（販売促進担当）	・ 景気回復傾向といわれているが、自店ではまだまだ来客数や購入額をみると回復傾向にはない。
百貨店（業務担当）	・ 熊本地震後、生活に落ち着きが出てきた反面、需要についても巡感がある。前年まで動いていた商品の動きが途端にとどまることも多く、盛り上がり期待するより、いかに低下しないかに気を取られる。
百貨店（売場担当）	・ 株高の影響もあり高額品が好調である。
百貨店（売場担当）	・ 市内の大型店3店舗でほぼ前年比100%前後で推移している状況で流的には変化はない。弊社だけだと9月以降同110%以上伸び率で金券を使っている。その底上げがあるということであるが、3月以降はそれがなくなるので注視するところである。衣料品が徐々に明るくなっており、この流れは継続する。
百貨店（マネージャー）	・ 現状、外国人観光客の購買はまだ上昇傾向であるが、一般客の購買意欲については不明の部分がある。
スーパー（店長）	・ 来客数は前年比90%前後と、競合店がいた前年10月と比べると平常の売上になる。青果の相場もかなり高くなっているが、前年も同様であった。鮮魚は、刺身が風評被害によりかなり売上が落ちており、前年比82%くらいになっている。このような厳しい状況が今後半年は続く。贈答品は前年並みの102くらいで推移しており、先取り体制で販売できており絶好調である。
スーパー（店長）	・ 変化する材料が見当たらない。
スーパー（統括者）	・ 賃上げは少しずつ着実に実施されているが、使える金が増えている認識はなく、何をもち好景気なのかが実感できていない。人手不足や他業態との競合も激しさを増しており、利益を削って売上確保を図っているのが現状であり、この状況はすぐには好転しない。
コンビニ（経営者）	・ 若干先行き不安の面もあるが現状のままであれば売上が減ることはない。
コンビニ（店長）	・ 不安な要因が見当たらない。
コンビニ（エリア担当・店長）	・ 熊本地震の影響もほぼ落ち着いてきており、客の動向も以前と比べると鈍ってきている。今後もこのままの状態推移する。
コンビニ（販売促進担当）	・ 大きくは変わらないが、北朝鮮情勢や中東で何か起きると原油価格に影響を与え、悪い方に行く。
衣料品専門店（店長）	・ ボーナスも出ており、景気は変わらない。
衣料品専門店（店長）	・ まだ九州北部豪雨の影響が大きく、悪い状態が変わらない。
衣料品専門店（店員）	・ 以前であれば式事の需要が増える時期だが、ふだん着化しているため礼服等の高額商品の売上が見込めない。
衣料品専門店（総務担当）	・ 当市における商業の力関係や、衣料品に対する消費動向を考えると、悪くなる要素はあっても良くなる要素はない。
乗用車販売店（代表）	・ 変わる要因がない。
住関連専門店（経営者）	・ 都市部や大手企業の好調な回復に比べ、地方では人口減少や商店街の消滅等、その格差はますます広がっている。地方では来年も景気の先行きは不透明である。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・ 前年同様12月が一番繁忙期になる。来店客への販売用やお歳暮用のコーヒー豆が出ているが、1月からは購買意欲も一段落し、売上が減る傾向にある。売上の的には変わらない、若しくは新規客が増えているので若干良くなる。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・ 物価の上昇と賃金の上昇のバランスが崩れている。
ドラッグストア（部長）	・ 特に変動する要素が見当たらない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・ 給油等で来店する客の今冬のボーナスは概して前年並みであったようである。年末年始に向け、カーケア商品の需要が増してきている。今年は厳冬が予想されており、灯油等の燃料油の販売が期待できる。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・ 外国人観光客の増加により前年実績が良かっただけに、どれだけ伸ばせるかが課題である。
高級レストラン（支配人）	・ 来客数が伸び悩む時期であり、また今年は寒さが厳しい。

	一般レストラン（経営者）	・年明けの予約状況が前年よりも悪いため、そんなに悪くはないが良くなることもない。
	スナック（経営者）	・年末ということもあり今月は前年同月を超えることができたが今月だけである。世間一般では景気回復の声が聞こえるが、自身を含めて飲食業同業者に好景気を感じさせる意見は聞けない。
	都市型ホテル（販売担当）	・まだ先が余り見えていないが1～2月と前年並みになる。
	都市型ホテル（スタッフ）	・市内の客室数は増えているが、高級ホテルの新規出店はなく、そこまでの影響はない。ただし、平日のビジネス利用客の単価に多少影響している。
	旅行代理店（従業員）	・景気の先行きが見えず、旅行需要の上昇につながる気配はまだまだである。海外では2月発券分から燃油サーチャージの値上げがあり、需要回復には懸念材料となっている。
	旅行代理店（企画）	・業界全体においては上向きだが、民泊の増加等、業界を取り巻く環境は厳しくなっている。
	タクシー運転手	・景気は徐々に上向きになっているが、北朝鮮情勢等の不安要素があるので、何かがあると一気に下がる。
	タクシー運転手	・今冬は寒すぎて人の動きが悪い。
	観光名所（従業員）	・年末年始は来客数が多いが、それを過ぎたらまた来なくなる。道路の凍結等の心配もある。
	競輪場（職員）	・歳末時に売上増が見込めないと、今後景気が良くなる見込みは少ない。
	競馬場（職員）	・変動する要因が見当たらない。
	美容室（経営者）	・12月に好景気を予想していたが余り変化のない業界なので、段々暖かくなっていくが横ばいが続く。数字も回復していないので新しい年に景気回復を図ってほしい。
	理容室（経営者）	・業種的に11月に比べて12月は動きがあるが、1～2月はまた閑散期になる。支店の売上の数字も前年比で少し悪くなる。業種にもよるが、客の話からも地方はそんなに景気の良い話を聞かない。そういったことが影響して厳しい状況である。
	美容室（店長）	・一部の企業は良くなったと聞かすが、この周辺で景気が良くなったという話を聞かない。
	音楽教室（管理担当）	・変わらないというよりよく分からない。受験や転勤で生徒数に動きがある。
	設計事務所（所長）	・世界情勢の不確かさや企業不祥事があっても上がり続ける株価の不自然さを見ていると、変わらないというより、分からない。
	住宅販売会社（従業員）	・来客数の推移と金利動向を考えると、この2～3か月の景気状況は変わらない。
	住宅販売会社（代表）	・金額が大きいので消費税の引上げが大きなポイントになってくる。それ以外の優遇措置をしっかりと説明しているが今後上向き可能性は少ない。
	商店街（代表者）	・1月は充電期という会社が多いが、年末年始でかなり主婦の財布の負担が重くなっており3か月先は購買力がなくなっている。
	スーパー（店長）	・今月から食料品の値上げがあり、粉、雑穀の値上げにより商品の動きが悪くなり、景気も若干悪くなる。
	家電量販店（総務担当）	・年明け初商以降の需要が期待できない。
	家電量販店（従業員）	・年末年始で支出が増え、年明けは買い控えが増える。
	その他専門店〔書籍〕（副店長）	・業界自体の縮小が改善する気配がなく、店舗周辺の商環境も変化がない。
	その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・かつおぶし不漁により製品の値上げが見込まれる。新年早々商品の仕入価格が改定されるため、販売価格に転嫁した場合、販売量に影響する。
	観光ホテル（総務）	・復興需要の力強さが薄れている。
	都市型ホテル（副支配人）	・1～3月は週末のみ団体の予約が集中しており、平日の予約状況が非常に悪い。
	通信会社（業務担当）	・インターネット回線の取次業務をしているが、年明けより代理店へ支払われる取次手数料が大幅に減額される。今後の業界情勢として、手数料が下がり続けることが予測され、数か月先まで売上が減少する。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・30年4月の介護報酬改定により若干良い方へ向かうが、人材確保がより困難で現状以上のサービスが難しい。
	設計事務所（所長）	・結果が2～3か月先に出るが、今の状態は指標的には少ないので、先行きは今より悪くなる。
x	商店街（代表者）	・年末商戦が終わったので景気は間違いなく伸び悩む。

	x	住宅販売会社（従業員）	・給与所得者の増税枠の年収が決まった。賃上げの時期にきているが、来年度に向けて賃上げできる会社とできない会社の差が激しい。給料が上がらない層が出てくることもあり、そういった不安から購買意欲が上がらないこともあり、景気は悪くなる。
企業 動向 関連  (九州)		電気機械器具製造業（経営者）	・来期の受注もある程度確約が取れている。
		家具製造業（従業員）	・一般家庭向け家具は前年比約90%だが、その他ホテル向けコントラクト家具の需要は確実に増えている。一般家庭向け家具と相殺しても全体では増えている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・年度末に向けた予算消化に伴い、受注量が増える。
		鉄鋼業（経営者）	・売上が若干ではあるが増加傾向にあり、受注案件も増えているので出荷量は増加する。問題は搬送のトレーラー不足、特に運転手不足であり、出荷に影響が出る。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今月後半になると来月分の計画が出てくる。それなりの動きをしてくるが、年明けは稼働日が少ないため1月の後半に集中してくるので若干上り調子になる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・新規の客の来訪が目立ってきている。機械設備やこれらの部品加工の超過を予測し、委託先を探している。
		電気機械器具製造業（取締役）	・場所、人、設備があれば確実に仕事が増える環境である。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・新車両の生産に伴い増産になる。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・半導体、電気部品関係共に増産方向である。自動車向けサーバーも現状不足しており急務となっている。
		金融業（調査担当）	・悪くなる話や指標が見られない。
		不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居率が向上しており今後も継続する。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・ホームページのアクセス数が増えてきている。
		農林水産業（経営者）	・例年1～2月は正月の反動から大きく落ち込む。3月になると行楽や人の移動等でスーパーマーケットや居酒屋等が活発になってくる。加工メーカーはメニューの変更があり本格的な動きは4月からになる。1～3月は余り期待できない。ただしこの時期に自社加工品が年度末で引き合いが強くなり、特に3月は忙しくなる。
		食料品製造業（経営者）	・今後も安定した受注が見込める。
		化学工業（総務担当）	・年度末にかけて需要期である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・量販店、百貨店共に売上が落ち込んでおり売場面積も狭まっている。輸出関連はうまくいっているが国内の小売が厳しい。
		金属製品製造業（事業統括）	・建築設備機器の製造メーカーであるが、次年度狙い目案件が乏しい。ゼネコンの好調さが末端の機器メーカーまで伝わっていない。
		建設業（経営者）	・建設業においては2～3か月では大きな変動はない。
		建設業（従業員）	・見積案件は、大型物件に偏っている。県公共工事も受注できているが、職人不足等、工期が遅れがちである。受注もなかなか厳しく設備投資も低調であり景気はなかなか良くならない。
		輸送業（従業員）	・特に景気が良くなる要素がない。
	通信業（職員）	・現在の受注状況が年度末までは続く。	
	金融業（従業員）	・取引先企業及び個人消費者の意見だが、この先全く良くなる材料も悪くなる材料もなく現在の状況が続く。政治に期待が持てず変わらない。	
	金融業（従業員）	・機械設備更新の動きが広範化してきているほか、企業の新規求人が増加しており、雇用者所得も持ち直し傾向にある。一方、タクシーや運輸業界等では人手不足に加え原油価格の値上がりにより経費上昇を懸念する先が増加してきている。	
	金融業（営業）	・人材不足により受注は頭打ちである。多くの企業でそのような意見が聞かれる。	
	新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料が見当たらない。	
	広告代理店（従業員）	・今月の新聞折込受注枚数は前年同月比92%と特に大きな変化はない。クリスマス・年末商戦はますますの反応だが、全体としては個人消費の活性化までには至っていない。冬のボーナスは増額したとの報道だが、実感できるほどではない。まだしばらくは現状のまま推移していく。	
	経営コンサルタント（社員）	・年末年始を控えており、新しい動きへの取組は期待できない。	

	経営コンサルタント (社員)	・売上が伸びてきており、購入金額も伸びている。
	その他サービス業〔コ ンサルタント〕(代表 取締役)	・市町村の12月の補正予算でも、アンケート調査や、計画策 定支援、設計等の業務が少ないため、売上が増加する見込み が少ない。発注が入札になると他社が不当廉売で落札する ケースが多いので受注できない。このため、景気が悪いまま 推移する。
	その他サービス業〔物 品リース〕(支社長)	・企業の業績は好調だが、身の回りは収入増加の様子がな い。働き方改革で休日が取りやすくなった。現在も社員を募 集している。
	農林水産業(営業)	・年越しの需要期も過ぎ、販売量は減少傾向になる。
	繊維工業(営業担当)	・運賃と賃金の急な上昇が2年続いているが、毎年工賃の値 上げはできない。最低賃金が3～4年前のベテラン従業員並 みになっているが、平行してベテラン従業員の賃金を上げる 余裕はなく同額になっている。
	精密機械器具製造業 (従業員)	・2月までの受注計画は受注先からの需要があり、忙しい毎 日が続いている。その後の計画はまだ出てないが、恐らく今 までの受注生産は落ちる。
	輸送業(従業員)	・景気上昇要素に乏しい。
	輸送業(総務担当)	・今月が良かった分、反動が懸念される。もともと少子化の 影響で消費も大きく伸び悩んでいることから、物流業界全体 からすれば厳しくなる。
	x 建設業(社員)	・年度末に向けて大型の補正も決定したようだが、県債や市 債の発注を多くしてほしい。下請工事も実施しているが、元 請工事を余り受注できていない。
雇用 関連	-	-
(九州)	人材派遣会社(社員)	・年度末の依頼も例年どおりである。求人数が多いという理 由で起こっている人材不足による変化は特に起こっていない が、人材派遣会社、直接雇用の会社は、常に人集めに不安が ある。
	人材派遣会社(社員)	・新年度に向け新卒補充がなされなかった部分での引き合い や派遣更新の動きもある。
	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・全般的に人手不足のため仕事がない状況ではなく、給与所 得がありそれなりの景気の良さはある。一方で人手不足によ る社会インフラの維持、少子化の影響が長期的に出てくるこ とが心配である。
	職業安定所(所長)	・誘致企業からの求人も予想され、引き続き高い有効求人倍 率が継続する。
	民間職業紹介機関(社 員)	・年度末に向かって期間限定の派遣社員の依頼が微増であ る。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	・当市及びその周辺郡部は大型の再開発や外国人観光客の効 果で人や物の動きは活発だが、駅や、都市部は関東、関西か らの大手資本の企業が出店している。時間給のほか、待遇面 も整って人材の採用を強化しているため、地元企業が人材を 採用できない状況が続いている。特に、労働集約型の業界は 大変な時代を迎える。
	職業安定所(職員)	・来春3月高校卒業予定者への県内事業所からの求人募集 は、前年度を30%以上上回る状況であり、ほとんどの高校生 が内定したが、現在もまだ増えている。これは、一般求職者 の採用が難しいため、新卒で採用しようという事業所の考え だが、県内新卒の求人倍率も3倍を超えており、かつてない ほどの売手市場となっている。
	職業安定所(職員)	・販売関係は引き続き好調のようであるが、介護関係は介護 報酬が来年より引下げられることから今後のサービスの見直 しを迫られているとの声も聞く。総合的には変化は見られない が、人材不足分野の介護業界はかなり厳しくなる。
	職業安定所(職員)	・あるボイラー製造業は大手造船会社の下請会社であり、主 に火力発電向けの配管や加工の依頼があるものの、人材が確 保できず業績は横ばいである。また、あるタクシー会社は夜 間に市内を走行しているが飲食店利用者が少ないため客数は 伸びていない。観光客の増加は景気を底上げするほどの影響 は出ていない。
	職業安定所(職業紹 介)	・今後も求人数の増加傾向と求職者数の減少傾向が続き、有 効求人倍率は高い水準で推移する。
	学校〔大学〕(就職支 援業務)	・採用予定数を充足できていないため今年度末まで継続的に 求人活動を行っている中小企業もある。ただし、景気の動向 と求人状況との関連性については明言できない。

	人材派遣会社（社員）	・有効求人倍率がこのまま上昇し続けると、求職者の新規登録は更に減少し、派遣社員の母集団の縮小が続く。加えて年度末繁忙期で、ますます人材が不足する。そのため企業から依頼が来ても、紹介が十分に行えず、契約数の増加が見込めない。
	人材派遣会社（社員）	・労働契約法の影響で派遣契約の終了が発生する。
x	-	-